

現地視察会 参考資料



阿賀野川河川事務所
令和元年11月20日

令和元年度モニタリング結果速報

【ワンド等湿地の再生】

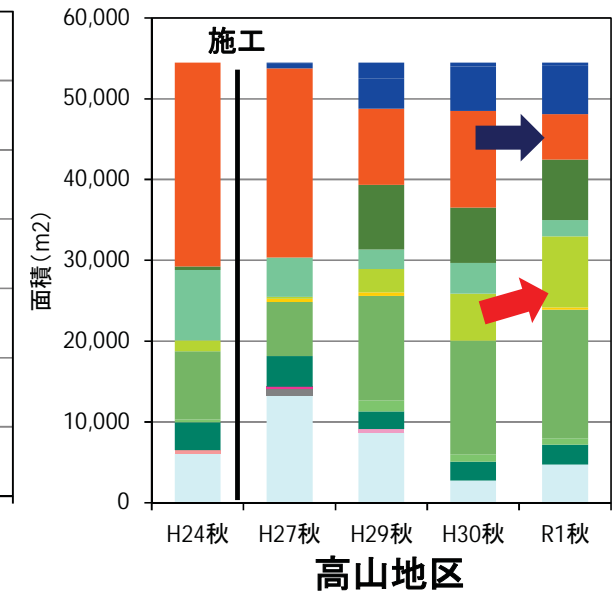
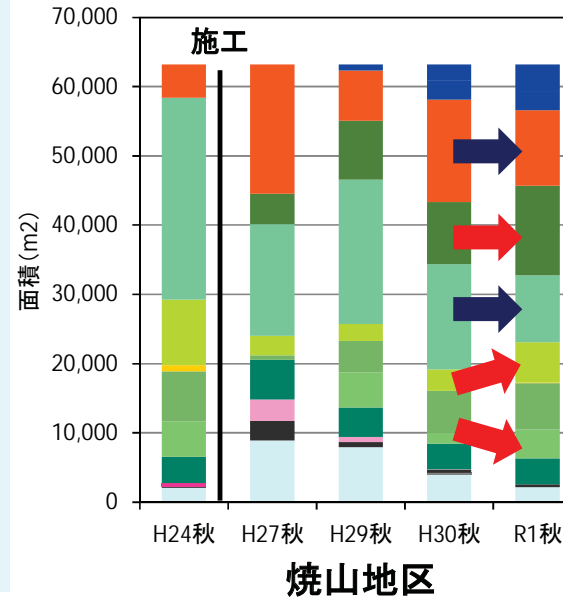
【早出川・流れの多様性の再生】

【植生面積の変化】

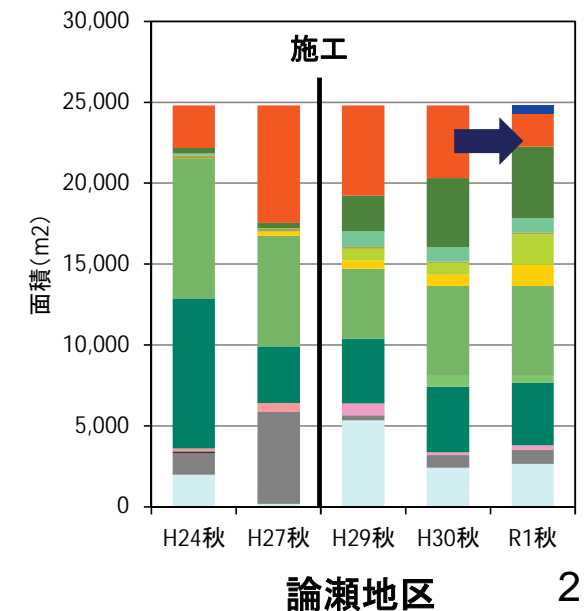
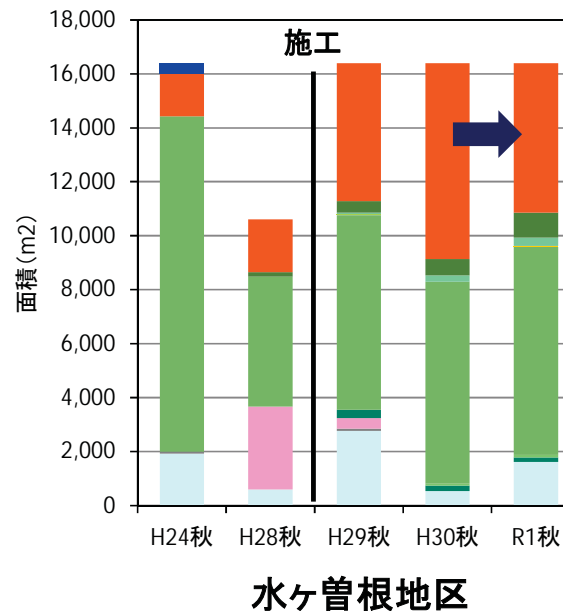
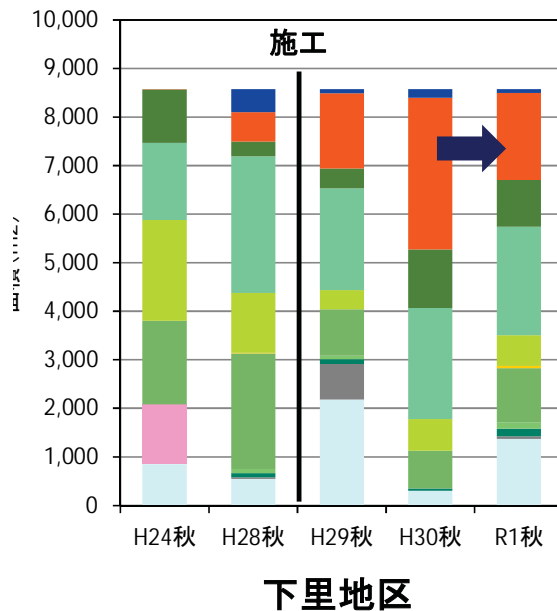
- ・各地区のワンドでは、施工後に水際の一年生草本類が増加した。(施工の効果)
- ・施工後5年の地区では水際の一年生草本類が減少し、やや比高の高い立地に生育するオギ群落、低木林等が増加する傾向がみられた。
⇒植生の遷移が進みつつある。
- ・施工後3年の地区では水際の一年生草本類が減少する傾向がみられた。
⇒今年度は植物の生育期の6月～8月の水位が高かったため水際植生の生育が抑制された。

※頻度法の結果は本検討会で報告予定

H26年施工(施工後5年)



H28年施工(施工後3年)



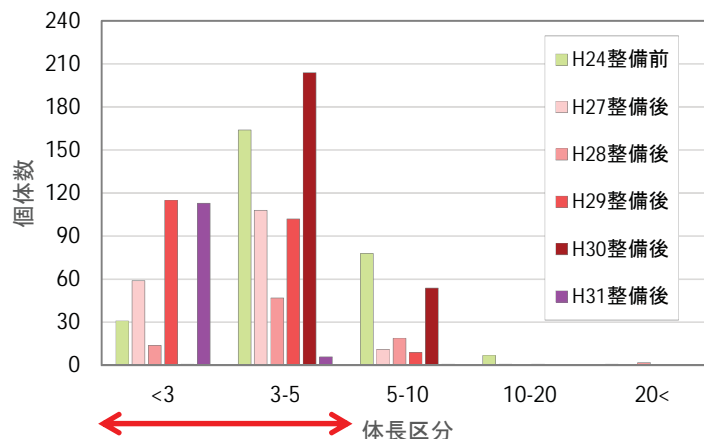
- 沈水植物群落
- 浮葉植物群落
- 一年生草本群落
- 多年生広葉草本群落
- 単子葉草本群落 ヨシ群落
- 単子葉草本群落 オギ群落
- その他の単子葉草本群落
- ヤナギ高木林
- その他の低木林
- 落葉広葉樹林
- 植林地(その他)
- 水田
- グラウンドなど
- 人工構造物
- 自然裸地
- 開放水面

- ・各地区のワンドでは、5cm以下の稚魚が経年的に確認されており、生物の「ゆりかご」としての役割を担っている。
- ・施工後5年の地区でも年変動があるものの、幼魚の生息が継続して維持されている。

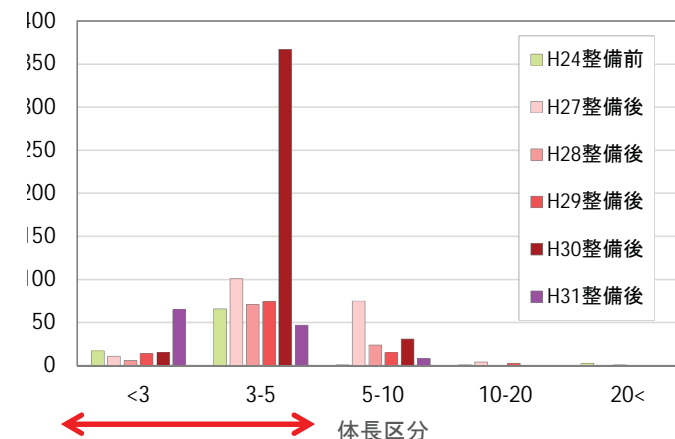


↔ :5cm以下の魚類

H26年施工(施工後5年)

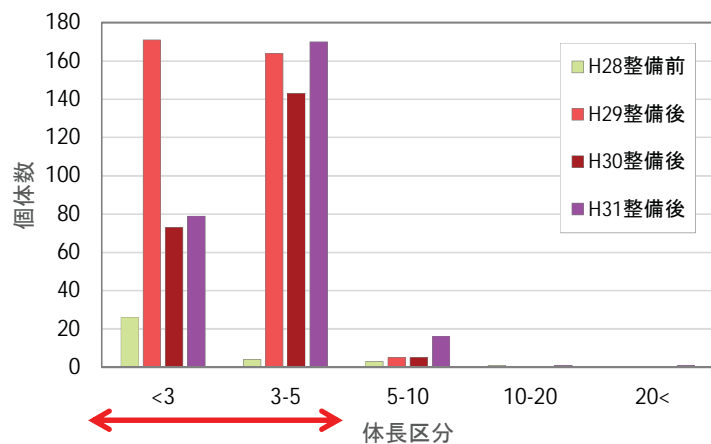


焼山地区

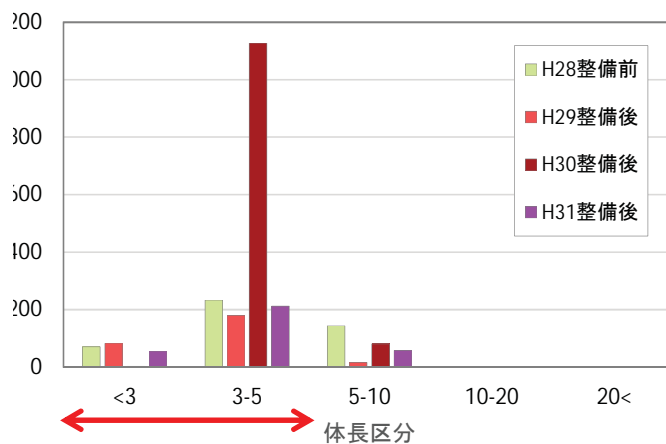


高山地区

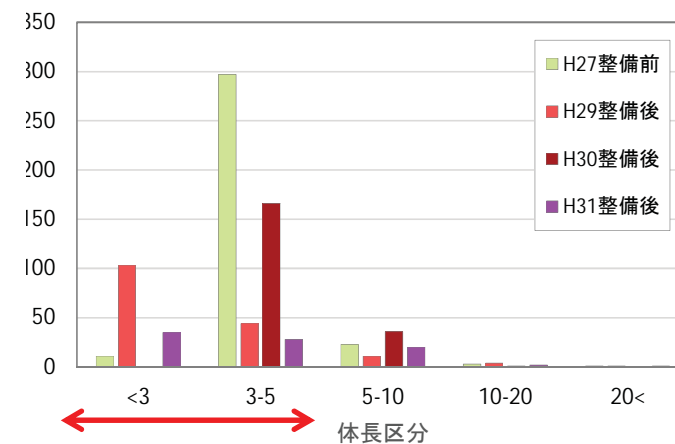
H28年施工(施工後3年)



下里地区



水ヶ曽根地区



論瀨地区

植物調査

- ・緩流部には、ホザキノフサモ等の沈水植物やミクリ属等の抽水植物の経年的な生育が確認されている。
- ・また、緩流部の水際には、アゼナ、ツルアブラガヤといった湿性植物の経年的な生育が確認されている。



魚類調査

- ・早出川に生息する魚類の確認種数は、整備後にも増加し続けている。
- ・整備後の多様な環境の出現に応じて魚類の多様性も増加している。
- ・今年度は、泥底に生息するスナヤツメ類が新たに確認されるなど、緩流域に生息する魚類が増えたことが特徴的である。



スナヤツメ類(R1.9.18)

ドジョウ類(R1.9.18)

No.	科名	種名	施工前		施工後					重要種	外来種
			H28		H29	H30	H31				
			春	秋	秋	秋	秋				
1	ヤツメウナギ科	スナヤツメ類					●	●	●		
2	コイ科	ギンブナ					●	●			
3		タイリクバラタナゴ					●	●		●	
4		オイカワ		●	●	●	●	●		●	
5		アブラハヤ	●	●	●	●	●	●	●		
6		ウグイ	●	●	●	●	●	●			
7		モツゴ						●		●	
8		ビワヒガイ		●		●				●	
9		タモロコ		●	●	●	●				
10		カマツカ			●	●					
11		ツチフキ						●		●	
12		ニゴイ	●		●	●	●				
13	ドジョウ科	ドジョウ	●	●	●	●	●	●	●		
		ドジョウ属						●	●		
14		ヒガシシマドジョウ	●	●	●	●	●				
15		フクドジョウ		●	●	●	●			●	
16	ギギ科	ギギ		●		●	●			●	
17	アカザ科	アカザ					●		●		
18	アユ科	アユ	●	●	●	●	●				
19	サケ科	サクラマス(ヤマメ)	●						●		
20	カジカ科	カマキリ			●		●	●	●		
21		カジカ	●	●	●	●	●	●	●		
22	サンフィッシュ科	コクチバス				●	●	●		●	
23	ハゼ科	ウキゴリ	●	●	●	●	●	●			
24		ジュズカケハゼ		●					●		
25		旧トウヨシノボリ類	●	●	●	●	●				
26		スマチチブ	●	●	●	●	●				
10科25種			11種	15種	15種	19種	22種	8種	7種		

【早出川の環境調査】

【阿賀野川での白鳥の越冬状況】

【調査内容】

- ・ 早出川環境調査の一環として、10月31日に早出川下流のたまりにおいて生息種及び生息環境の確認調査を行った。

【調査結果】

- ・ 対象としたたまりに魚類は確認されなかった。
- ・ 魚類以外の動物として、アメリカザリガニ、ウシガエルの幼生等が確認された。



【表層の水温・水質】

水温 : 14.1°C

pH : 6.0

DO : 6.6 mg/L

EC : 17.3 mS/m



- ・ 阿賀野川ではハクチョウ類が越冬地として利用している。
- ・ 10～11k付近、12～13k付近の浅場で多く確認されており、他にも15～16k付近、20～21k付近、26～28k付近で確認されている。

■ハクチョウ類について

- ・ 本資料ではオオハクチョウ、コハクチョウを指す。
- ・ 阿賀野川ではコハクチョウが多い。
- ・ 越後平野では瓢湖や福島潟などの湖沼、阿賀野川や信濃川などの河川、水田などで確認されている。
- ・ 飛来時期は10月～4月。
- ・ 水草の葉・茎、果実、落穂などを採食。



出展：阿賀野川河川事務所HP

■ハクチョウ類の越冬地(本日視察地点)



ハクチョウ類の集団分布地凡例

- H4 ● H20
- H9 ● H25
- H15



ハクチョウ類の利用状況(9.4～10.0k付近,H20)



ハクチョウ類の利用状況(12.8～13.0k付近,H20)

図.ハクチョウ類の確認状況と視察箇所
※出典：河川水辺の国勢調査(鳥類)報告書H4、H9、H15、H20、H25



図.ハクチョウ類の飛来数調査結果(2018年度)
※出典:新潟県水鳥湖沼ネットワークHP